

## 編輯 後 記

歴史の転換期とか危期、あるいは21世紀への展望、果ては戦後政治の総決算等々が叫ばれ、国内情勢は相変わらずである。国外をみれば、メキシコ地震や中東問題・飢餓問題を出すまでもなく、やはり多難な一年であった。

本学でも「将来計画」の名のもとに、いわゆる「スリム化」案が至上主義的な様相をみせている。善悪は別として、間違いなく一つの節目を迎えようとしている。

こうした「雑音」に関りながらも本研究所の活動が、まずは順調に進んだ1年であった。何とか期限に間に合わせ、紀要31輯をお届けする次第である。

寒い冬が続いたが、そろそろ梅の便りが聞かれる今日この頃、やがて桜が咲き、大学も新入生を迎えて活気が戻るであろう。その頃には調査活動も活発に行なわれ、大きな成果を生むものと期待したい。

本年度、新所員として津之地直一・玉井力・市野和夫氏を迎え、芳賀陽・小沢耕一氏を非常勤所員に迎えることができた。また、一昨年まで所員であった島本彦次郎氏には、引続いて非常勤所員として参加して頂くことになった。益々、研究が発展するであろうと期待する所以である。

(K・W)

### ○新入所員

津之地 直 一  
玉 井 力  
市 野 和 夫

### ○非常勤所員

芳 賀 陽  
小 沢 耕 一  
島 本 彦次郎

昭和59年3月退職 島 本 彦次郎

### 愛知大学総合郷土研究所紀要 第31輯

昭和61年3月15日

〔非 売 品〕

編輯代表 田 崎 哲 郎

印刷所 富 士 印 刷 株 式 会 社  
豊橋市前畑町37

発行所 愛知大学総合郷土研究所  
豊橋市町畑町